



日本の起業家率の現状と課題



黒石 健太郎

株式会社ウィルフ 代表取締役

志で未来を創る



はじめに

【本日の目的】

- ①共有 : 事実の共有により、課題認識を広げる
- ②ブレスト : 社会課題解決に必要な打ち手仮説、要因仮説の幅を広げる

【解決したい課題】

- 起業家が少ないこと

【目次】

- 弊社の自己紹介

- なぜ、起業家が必要なのか

- 起業家が増えない課題は何か 一般論

- 起業家が増えない課題は何か 黒石仮説

- 解決の方向性仮説

- 弊社の自己紹介
- なぜ、起業家が必要なのか
- 起業家が増えない課題は何か 一般論
- 起業家が増えない課題は何か 黒石仮説
- 解決の方向性仮説

- ▶「若者が未来に希望が持てる社会」にするため、持続的な経済成長を実現したい。そのために、起業家を増やし、日本から新産業を生み出す仕組みを作る。

ミッション

若者が未来に希望を持てる社会を創る

ビジョン

起業家率の向上を実現する

▲▲ 具体的には「学生起業家スクール」



起業家への、 最初の一歩を。

▲▲ 8つの 経営スキル学習 × 本物の起業家と 事業プラン実行 ▲▲ ▲▲ 本物の起業体験を共に

にひとつでもチェックが付く方は、このプログラムの受講をオススメします。(学部生/院生対象)

- 将来、起業家になりたい!
- ビジネススキルを身につけたい
- 自分に起業が合うか確認したい
- 学生時代、何か熱いことをやってみたい

ウィルフ学生起業家スクール

【ウィルフ学生起業家スクールとは】2013年10月～翌年3月の6ヶ月(週1回程度)で、8つの経営スキルを学習。さらに、自らが社長として事業プラン(イベント企画/祭り出店/e-commerce等、1日～数日で結果が見える事業)を考え、起業家やコンサルタントからフィードバックを受け、事業プランを磨き上げた上で、実行します。期間中に計3回、実際に事業運営することで、「学習×実践」により、「本物の起業体験」が積めるプログラムです。最後は、卒業後に自らが取り組む事業プランを書き上げて、修了となります。

【卒業時に得られるもの】▶ 起業に必要な経営スキル ▶ 「社長としての」リアルビジネスでの成功体験 ▶ 卒業後に自らが取り組む事業プラン ▶ 学生起業家の仲間 ▶ 起業家の先輩やコンサルタントなどの仲間

- 弊社の自己紹介
- なぜ、起業家が必要なのか
- 起業家が増えない課題は何か 一般論
- 起業家が増えない課題は何か 黒石仮説
- 解決の方向性仮説

▲▲ なぜ、起業家が必要なのか まとめ

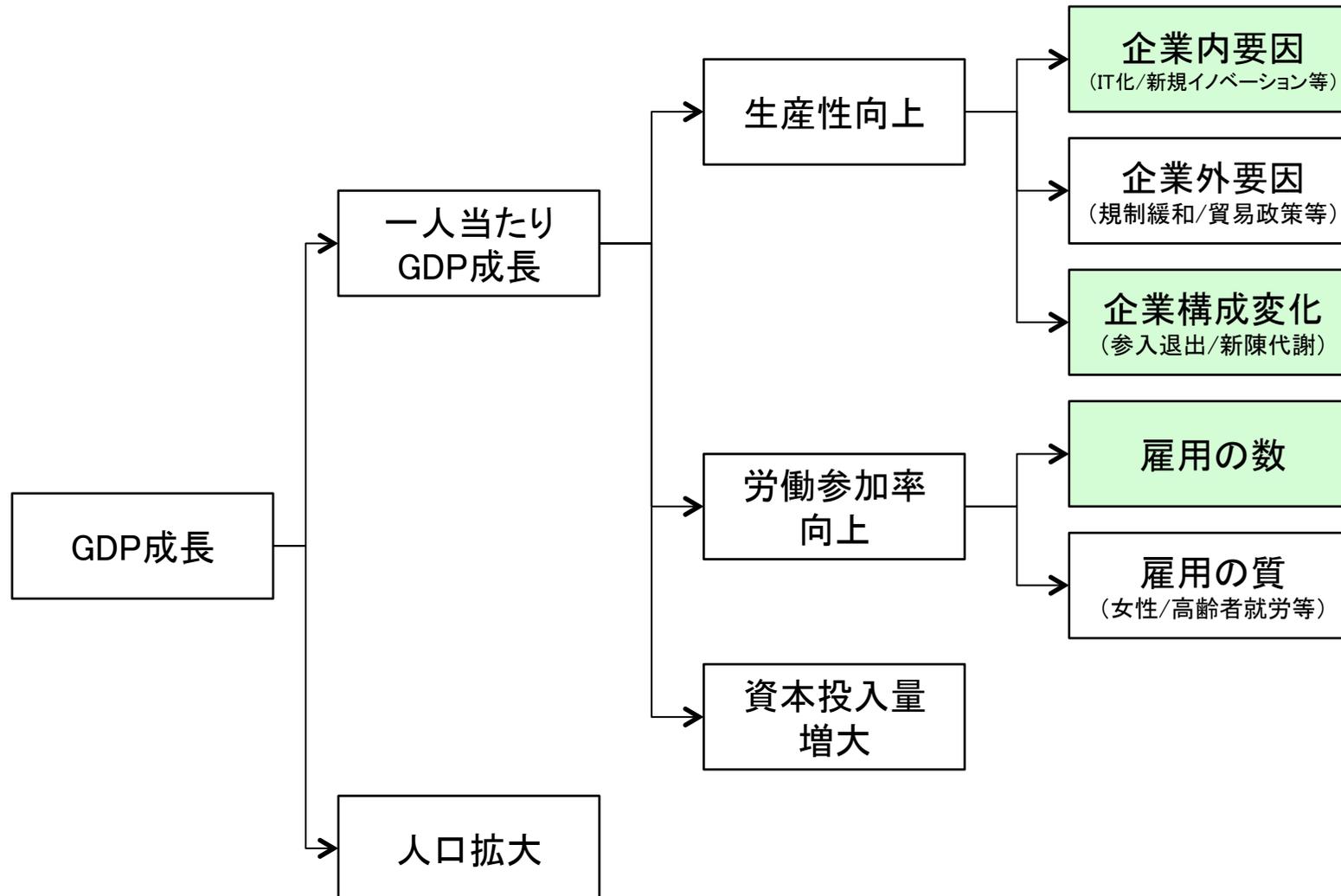
1: 一人当たりGDP向上に、起業活動率が影響

影響1: 生産性向上につながる

影響2: 雇用創出につながる

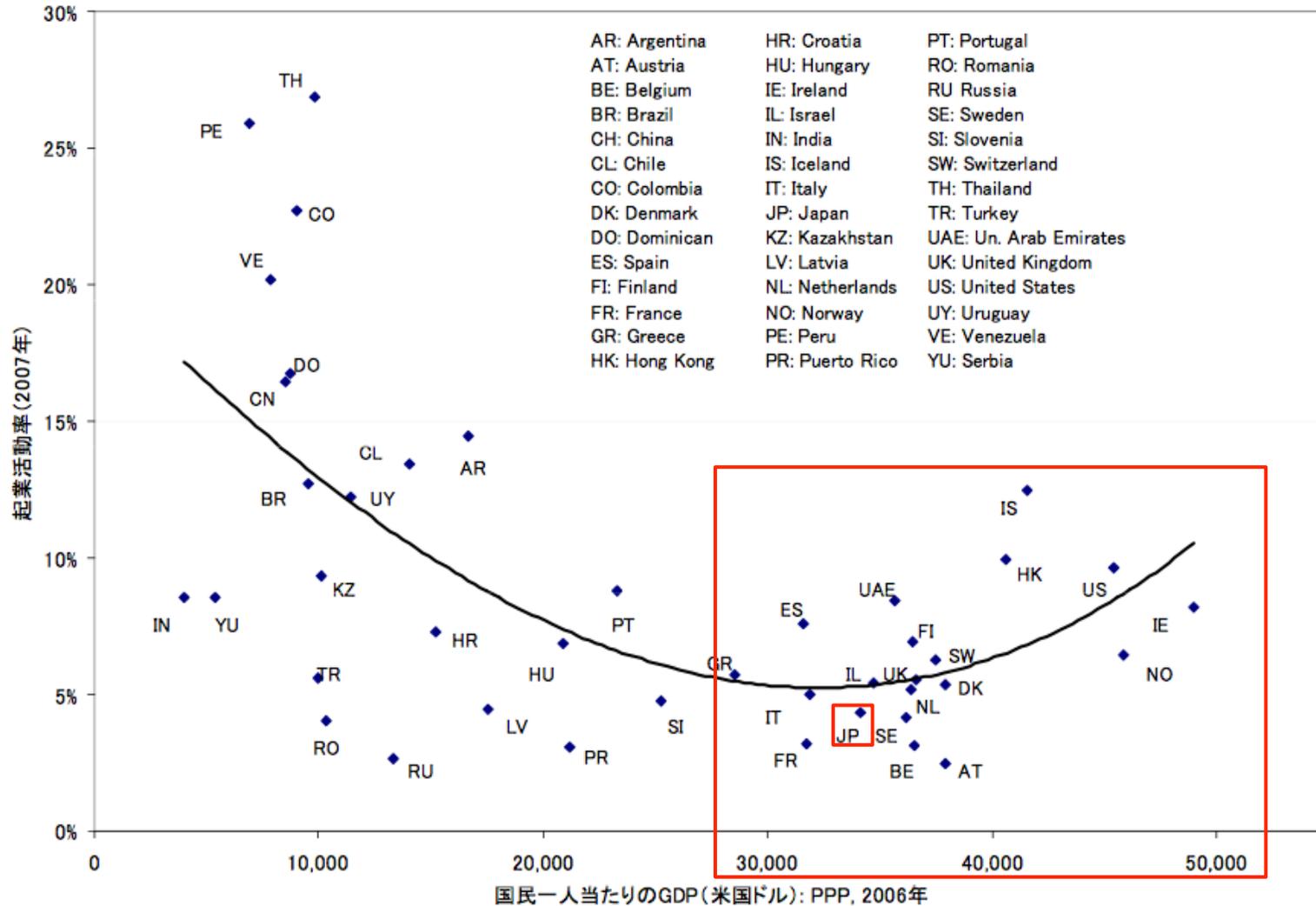
2: 日本の起業活動率は米韓の半分以下

▲▲ なぜ、起業家が必要なのか 全体の位置づけ



▲▲一人当たりGDP向上のために、起業活動率が影響

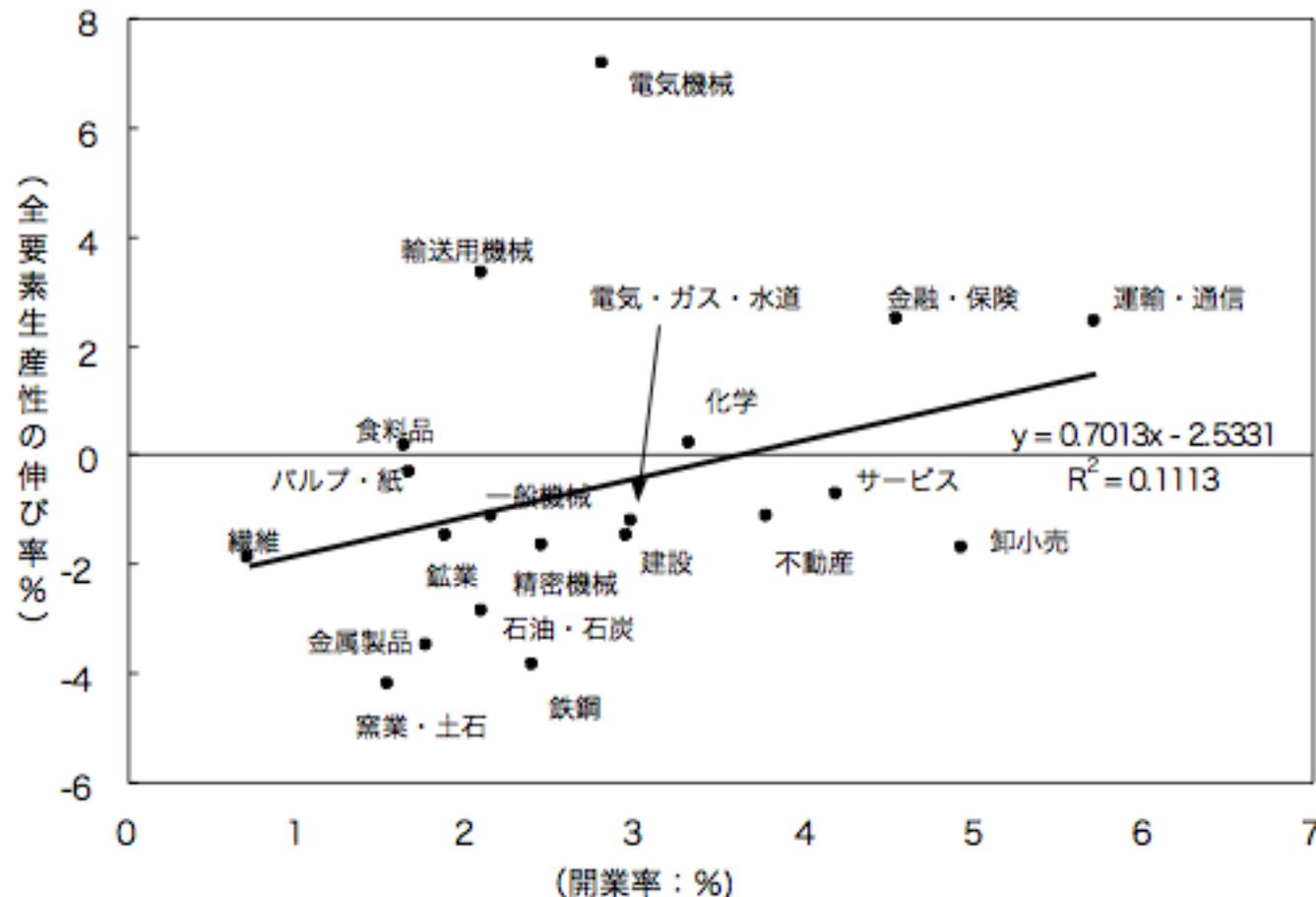
▶一定の経済力を超えた国では、事業機会を活かした起業活動が強くなり、イノベーション主導で経済成長が行われる。



▲▲ 新規開業が、産業の生産性向上につながる

- ▶開業率が高い産業ほど、生産性上昇率が高い。参入退出の新陳代謝により、生産性が高い企業に企業構成が変化していると考えられる。

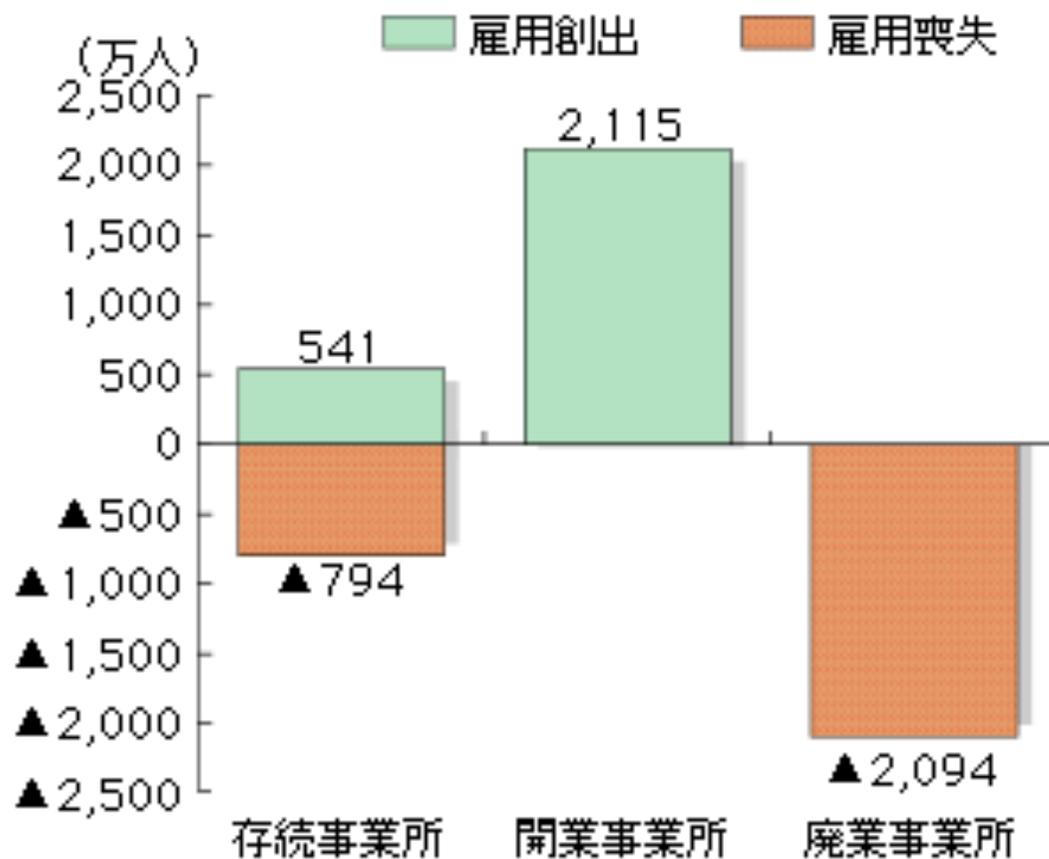
図表-3 開業率と生産性上昇率の関係



(資料) 内閣府『国民所得計算年報』、『民間資本ストック』、経済産業省『鋳工業生産・出荷・在庫指数』

▲▲ 新規開業が雇用創出につながる

▶ 新規の雇用創出は、新規開業事業所によって生み出されている。

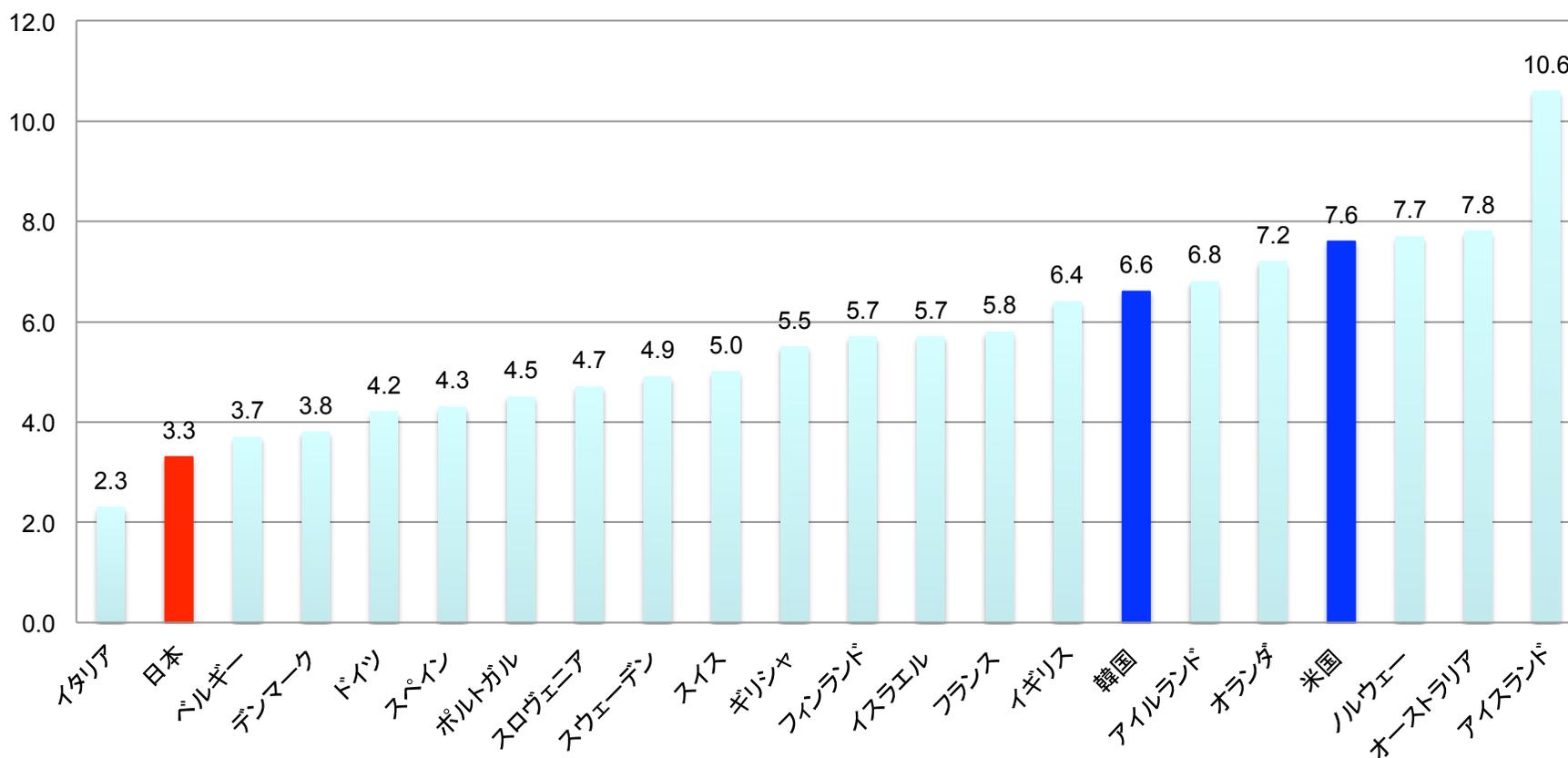


資料：総務省「事業所・企業統計調査」により特別集計
(注) 1. 1994年と2004年の調査で接続可能な事業所を存続事業所とする。
2. 1994年調査に存在せず、2004年調査時点で存在した事業所を開業事業所とする。
3. 1994年調査に存在し、2004年調査時点で存在しなかった事業所を廃業事業所とする。

▲▲一方、日本の起業活動率は米韓の半分以下

▶イノベーション主導型国家の中で、日本の起業活動率は3.3%と米韓の半分以下。

各国の起業活動率



※Global Entrepreneurship Monitor「2010 Global Report」

- 弊社の自己紹介
- なぜ、起業家が必要なのか
- 起業家が増えない課題は何か 一般論
- 起業家が増えない課題は何か 黒石仮説
- 解決の方向性仮説

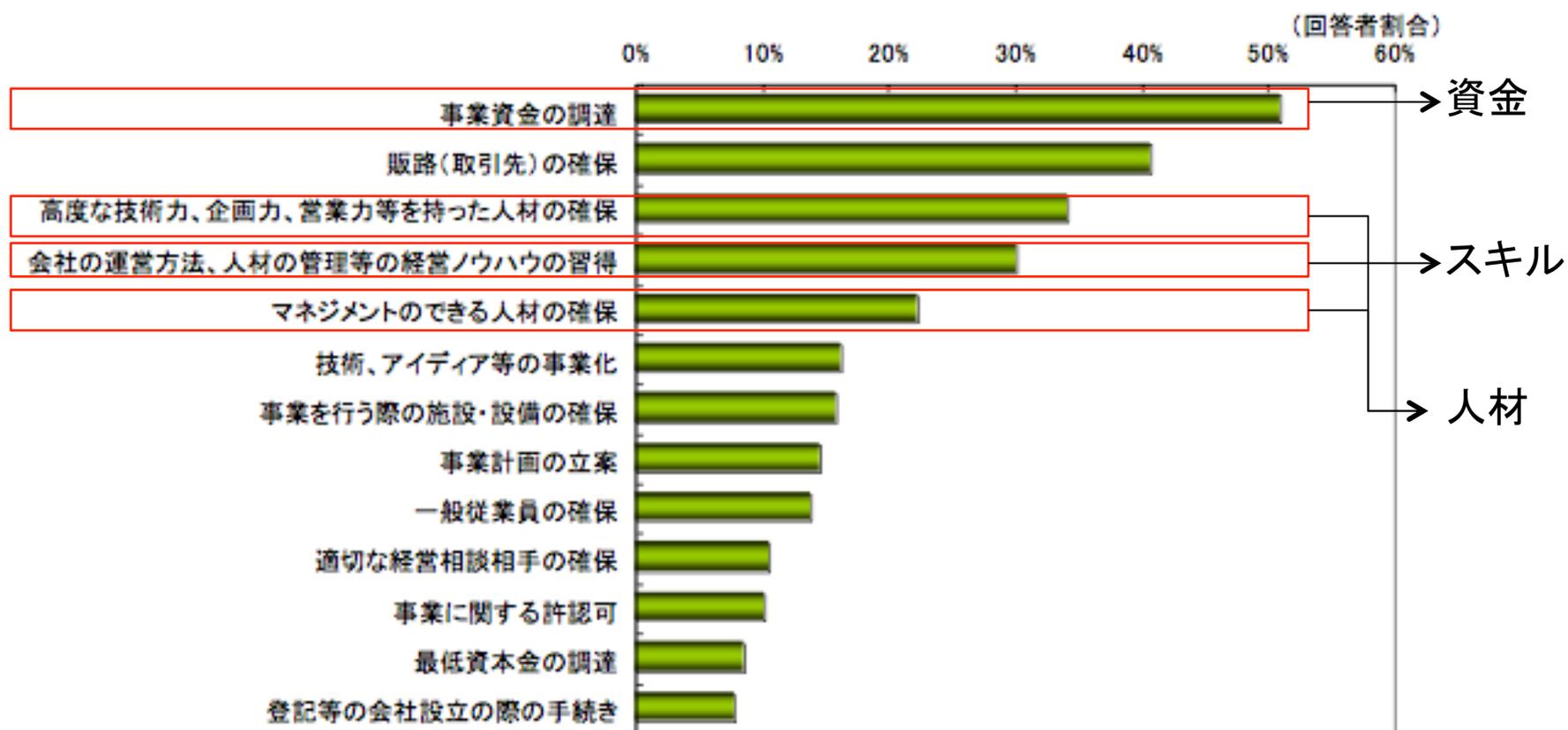
1: 資金の調達難易度の高さ

2: ベンチャーリスクを許容できる人材の不足

3: 起業スキルの不足

▲▲ 起業家が増えない課題は3つ

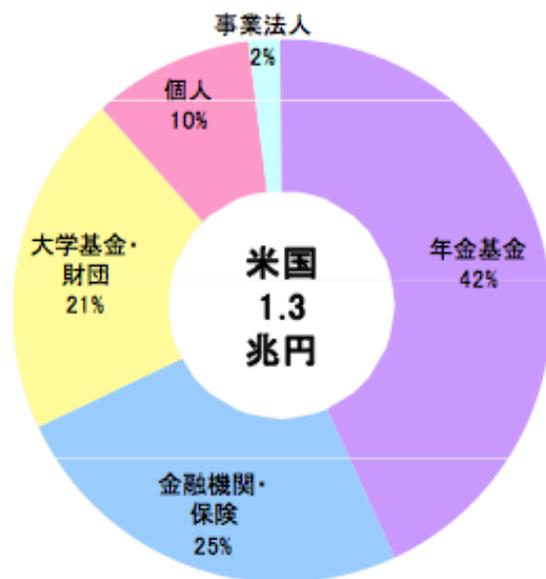
▶ 資金調達難易度の高さ、ベンチャーリスクをとれる人材の不足、起業スキルの不足。



(備考) 内閣府が野村総研に委託して実施した新規開業企業およびベンチャー企業に対するアンケート調査結果より作成 (標本=720社)

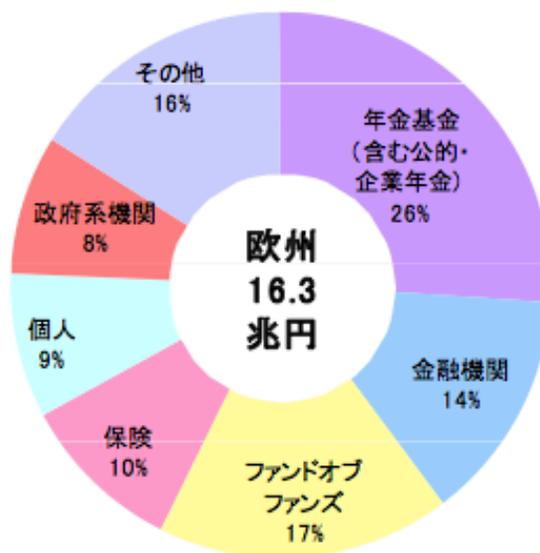
▲▲ 1: 資金の調達難易度の高さ

▶日本のベンチャーキャピタル業界の投資規模は、欧米の1/5以下。投資先一件あたりの投資額も小さい。



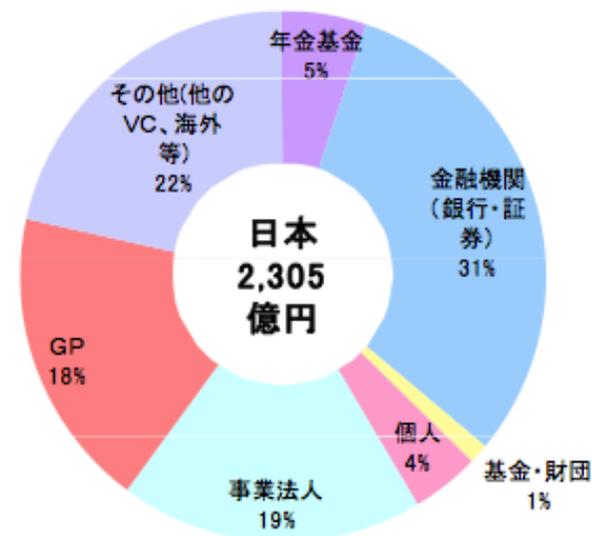
出所: 2004 NVCA Year Bookより

一件当たりの投資額
= 10.4億円



出所: 2007 EVCA Year Bookより

一件当たりの投資額
= 4.5億円

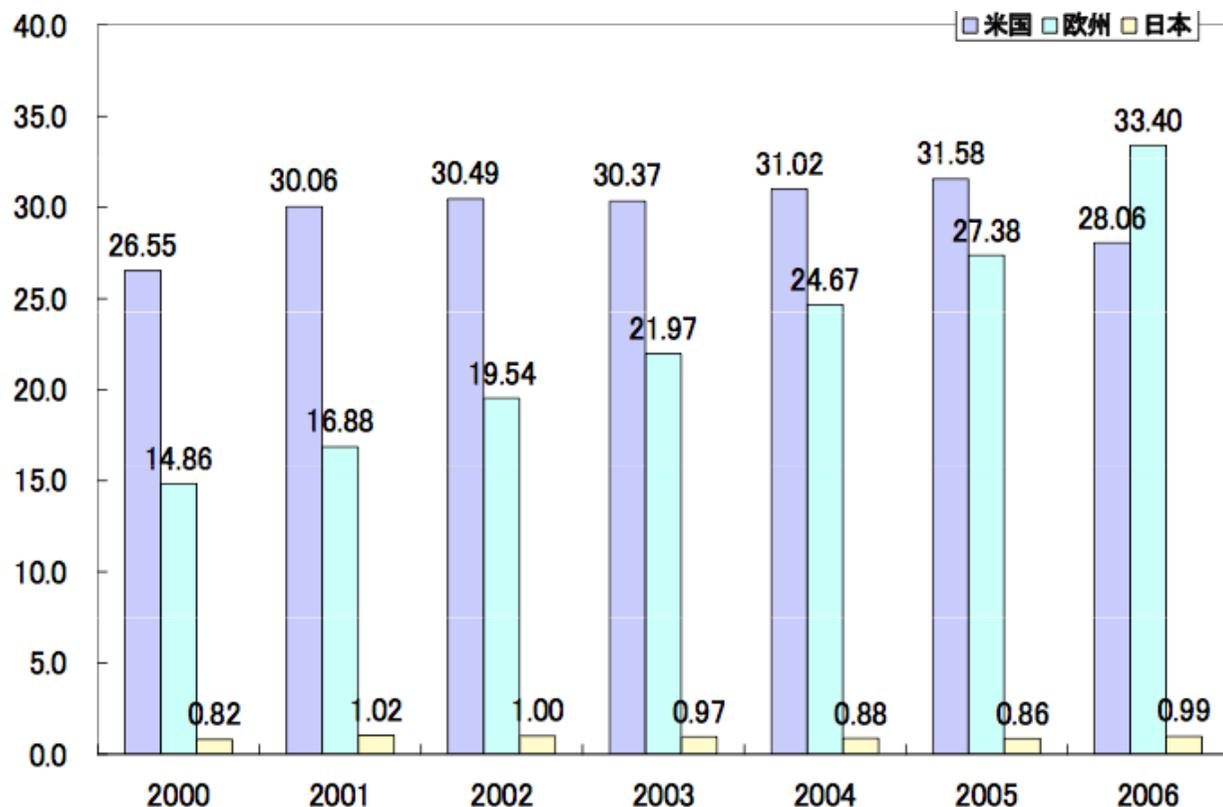


出所: (財)ベンチャーエンタープライズセンター「平成18年度ベンチャーキャピタル等投資動向調査(2006年12月)」

一件当たりの投資額
= 8,300万円

▲▲ 1: 資金の調達難易度の高さ

▶ベンチャーキャピタルの投資残高も、欧米の1/28以下。



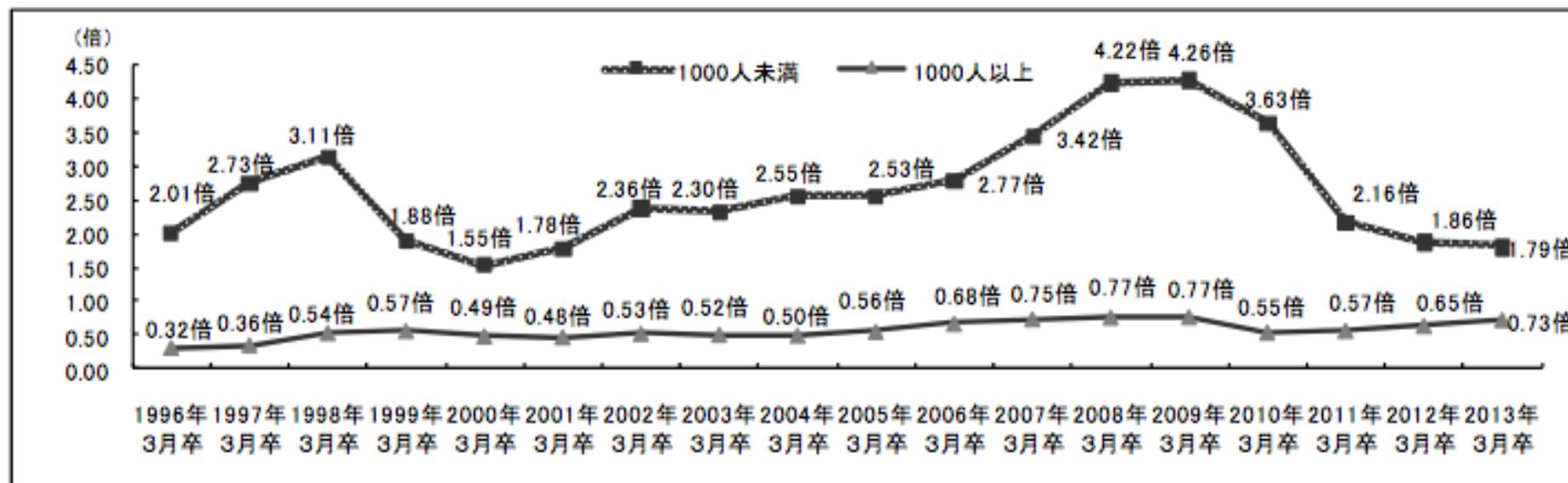
資料：財団法人ベンチャーエンタープライズセンター 「ベンチャーキャピタル等投資動向調査」、
NVCA Yearbook 2007、EVCA Yearbook 2007
1ドル=119円、1ユーロ=158円にて換算。

米国はVC投資のみでかつ米国内への投資に関する結果であり、欧州はPE投資及び海外投資を含む。
日本は03年までは再生、パイアウト投資を含むが04年以降は再生・パイアウト投資を除く（すべての年において海外投資を含む）。また、日本の投資残高は、各年3月末時点のデータである。

▲▲ 2:ベンチャーリスクを許容できる人材の不足

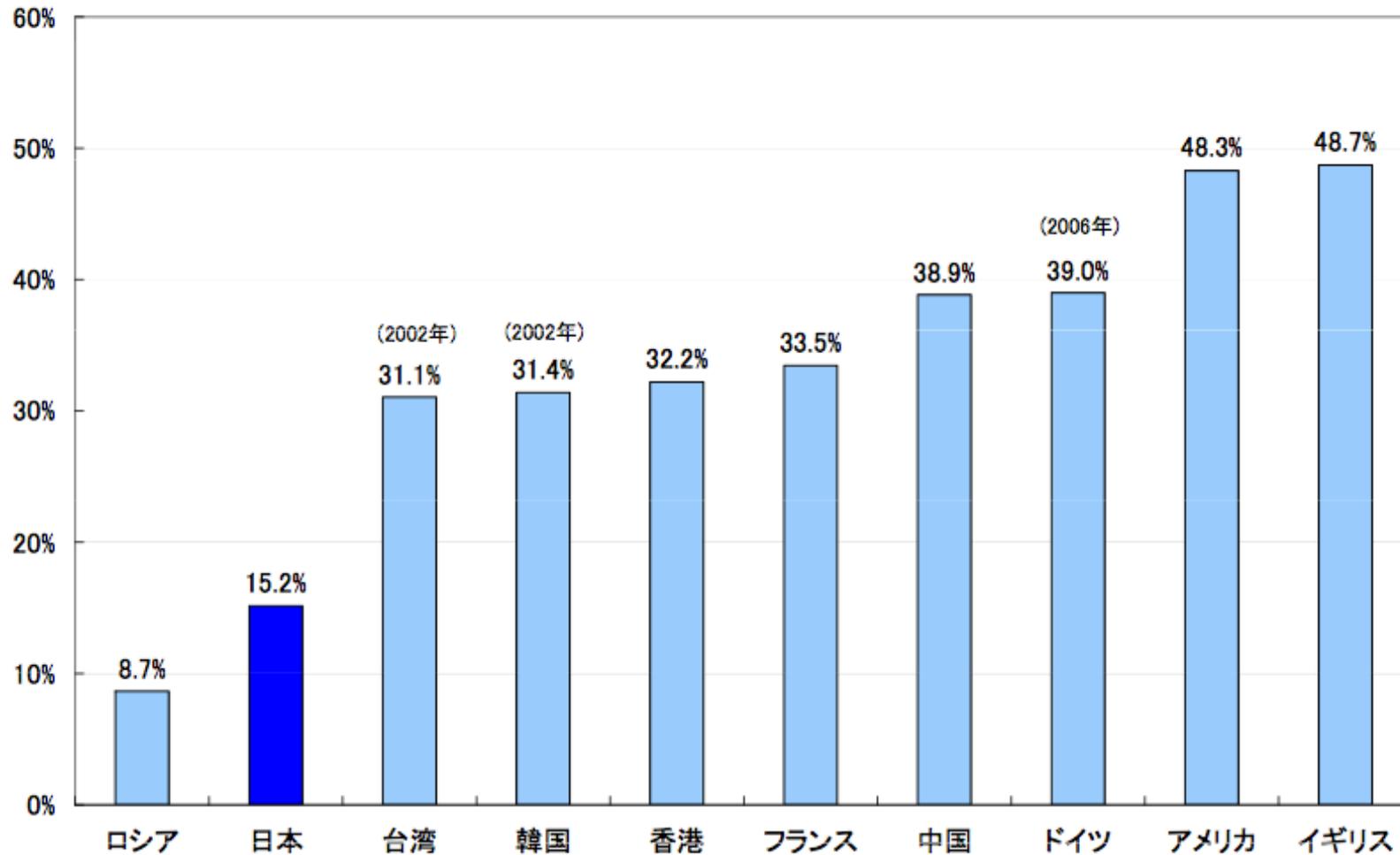
▶中小企業の求人倍率は1.79倍と、大企業の2倍以上。

■従業員規模別求人倍率の推移



▲▲ 3: 起業スキルの不足

▶自身に、「起業スキルがある」と考えている人の比率は、諸外国の半分以下。

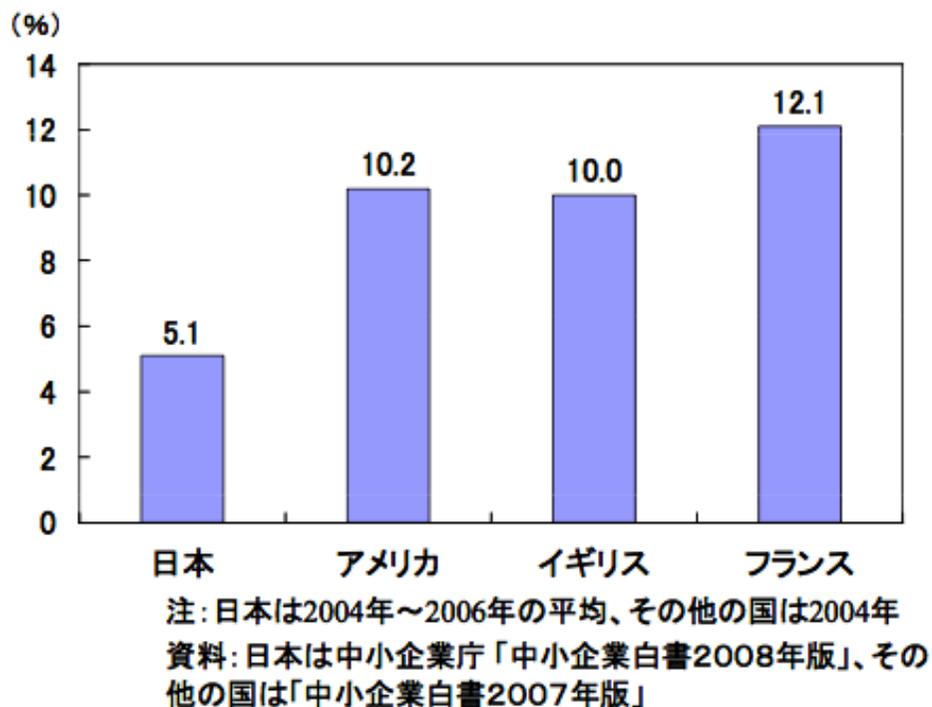


資料: Global Entrepreneurship Monitor 2007 (GEM)

▲▲ 3: 起業スキルの不足

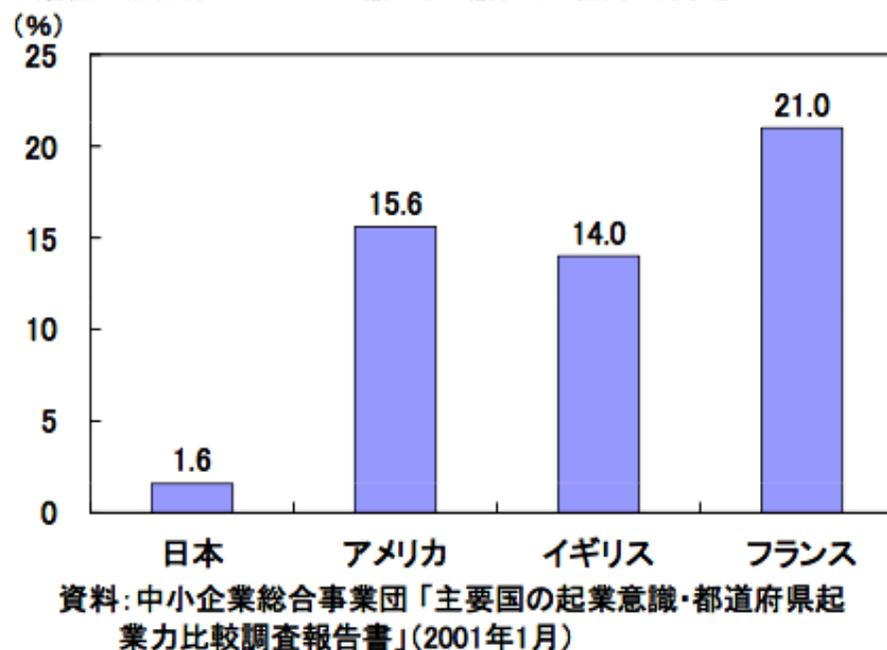
▶大学/大学院の起業家養成コース受講経験がある者の比率も、欧米の1/10程度。

主要国の開業率



大学/大学院の起業家育成コースの
受講経験有りとする者の割合

(各国の無作為に抽出した18歳から65歳までの住民に対する電話調査結果)



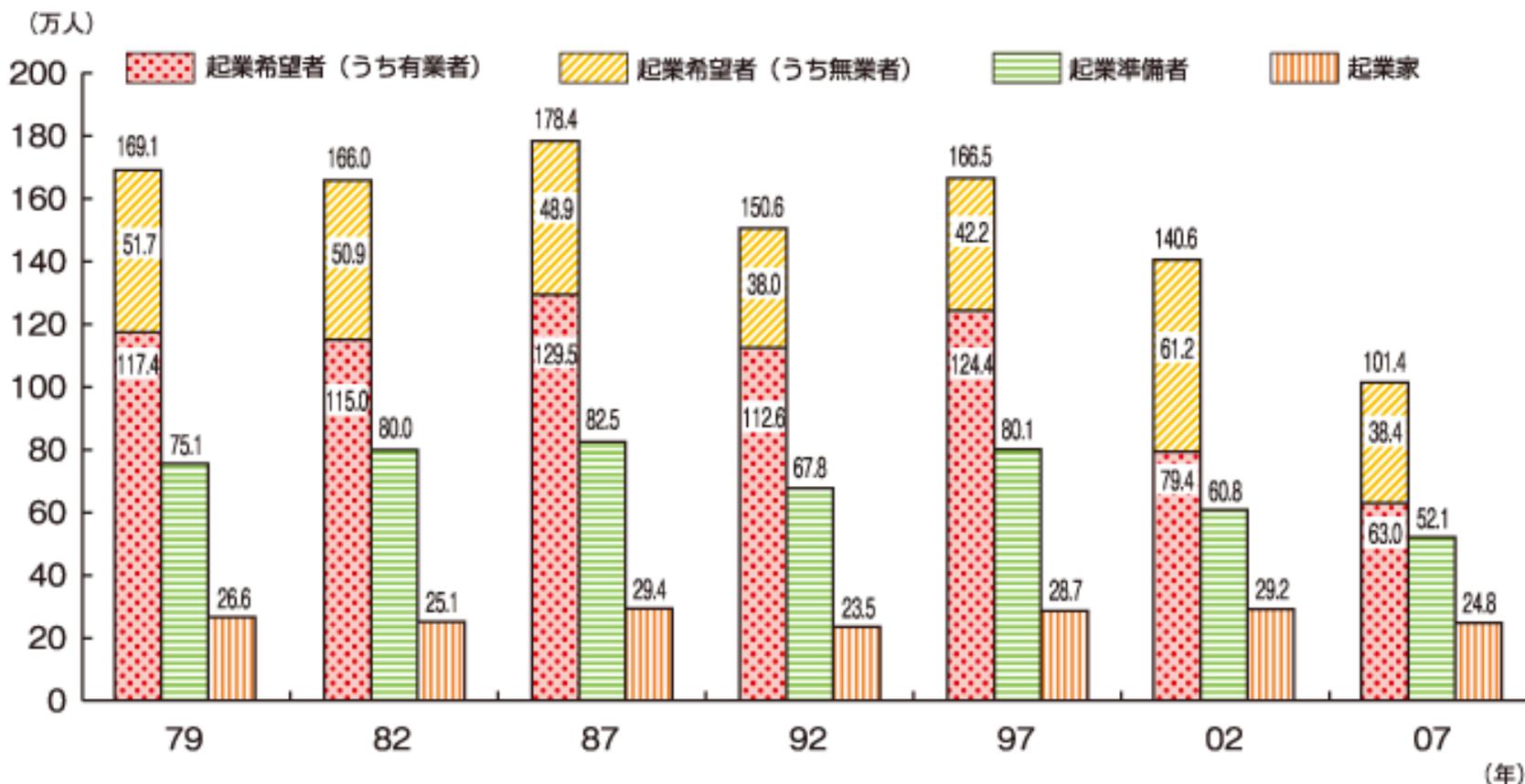
- 弊社の自己紹介
- なぜ、起業家が必要なのか
- 起業家が増えない課題は何か 一般論
- 起業家が増えない課題は何か 黒石仮説
- 解決の方向性仮説

1:「自らやる」という選択肢がリアルな選択肢にない

2:その要因は、起業体験を積む機会がないから

▲▲1:「自らやる」という選択肢がリアルな選択肢にない（全体）

▶起業希望者は100万人以上いるが、実際に起業するのは、25万人程度。



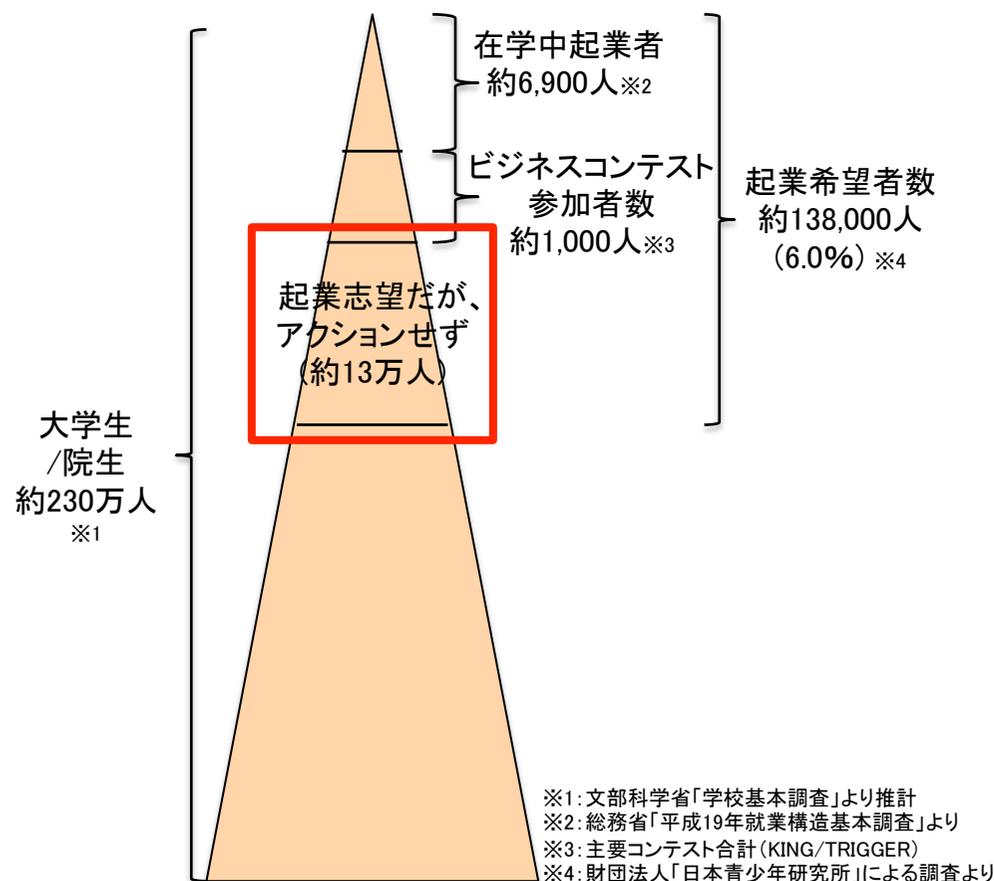
資料：総務省「就業構造基本調査」再編加工

- (注) 1. 起業希望者(うち有業者)とは、有業者の転職希望者のうち、「自分で事業を起こしたい」と回答した者をいう。
 2. 起業希望者(うち無業者)とは、無業者のうち、「自分で事業を起こしたい」と回答した者をいう。
 3. 起業準備者とは、起業希望者のうち、「(仕事を)探している」又は「開業の準備をしている」と回答した者をいう。
 4. 起業家とは、過去1年間に職を変えた又は新たに職に就いた者のうち、現在は自営業主(内職者を除く)となっている者をいう。

▲▲2:「自らやる」という選択肢がリアルな選択肢にない（学生）

▶13万人もの起業希望者が、将来的に起業を希望しながらも、「リアルな選択肢でない」「スキル不足」という理由から、在学中に起業に向けた行動を行っていない。

大学生/院生のうち約13万人が起業を志望しつつ行動せず 理由は「リアルな選択肢でない」「スキルの不足」の2点



【学生インタビュー】

「まずは、何がやりたいか分からないため、勉強して、色々な情報を収集したいと思った。」
(国際基督教大学4年生)

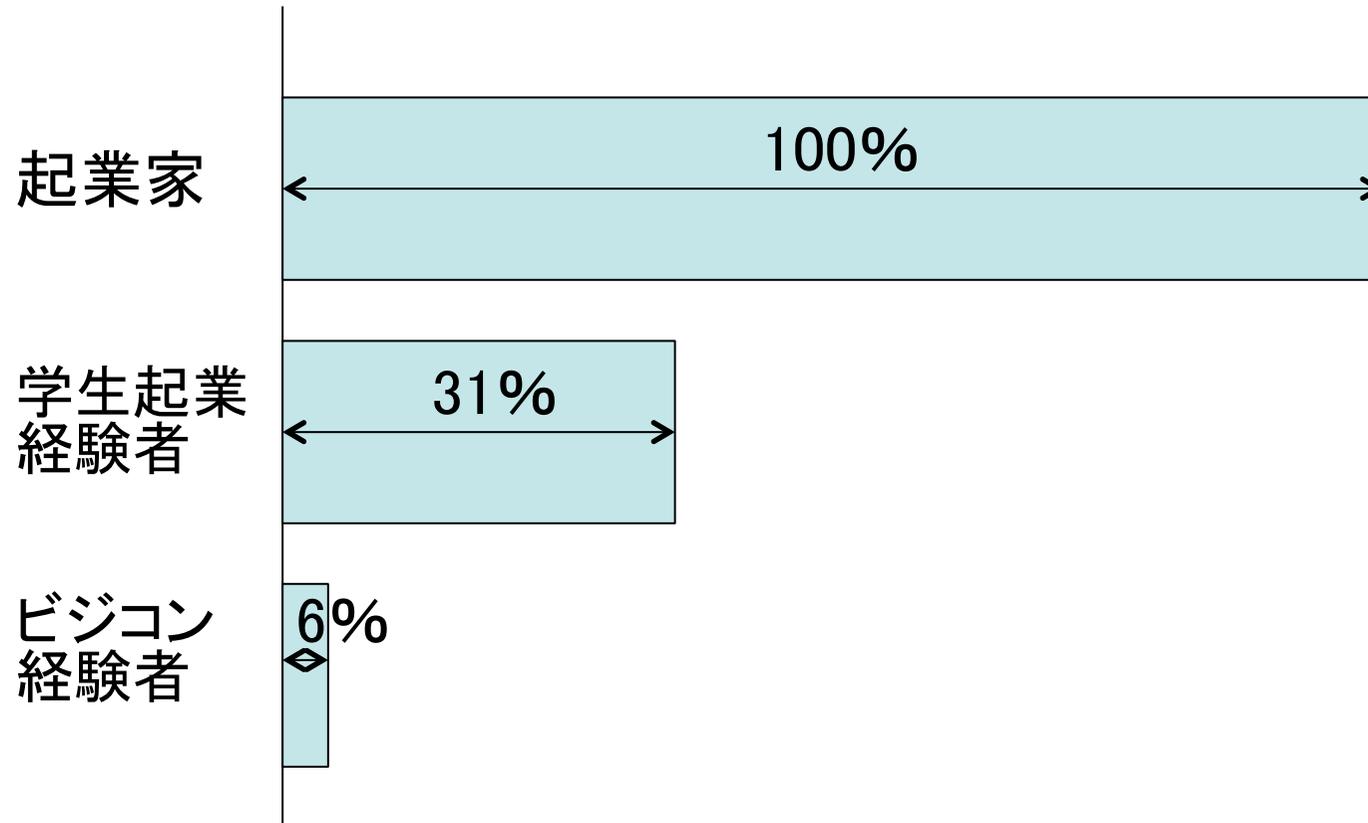
「漠然と起業したいと思っているが、何がやりたいかまだ分からないし、スキルが足りないと思っている。」
(横浜国立大学1年生)

「自分でやるにも、まだ全然力が足りないと思うため、一歩踏み出せない」
(東京学芸大学1年生)

「学生時代から起業するという選択肢があるなんて考えたことが無かった」
(東京大学3年生)

▲▲ 2: その要因は、起業体験を積む機会がないから

- ▶ 起業家の中で、31%は学生起業経験がある一方で、ビジコン経験者は6%のみ。プランを考えるだけでなく、実際にやってみる起業体験こそが、起業家を生み出す。



※東洋経済2013/6/15に掲載された起業家リストから抽出

▲▲ 2: その要因は、起業体験を積む機会がないから

▶ 学生起業のきっかけで最も多かったのは、「文化祭やイベントなどのビジネスを、本気で取り組んだら結果的に利益がでて、自分でもいけると思ったから」。



【東京大学 院2年生 学生起業経験者】

「駒場祭で、模擬店を出す時、プロのコンサルタントのサポートを受けて
ビジネスフレームワークを勉強し、
過去の成功事例の共通項を分析した上で、
他店と差別化できる商品を出店。

結果、他の店舗が10万円くらいの売上の中、
30万円売れた。

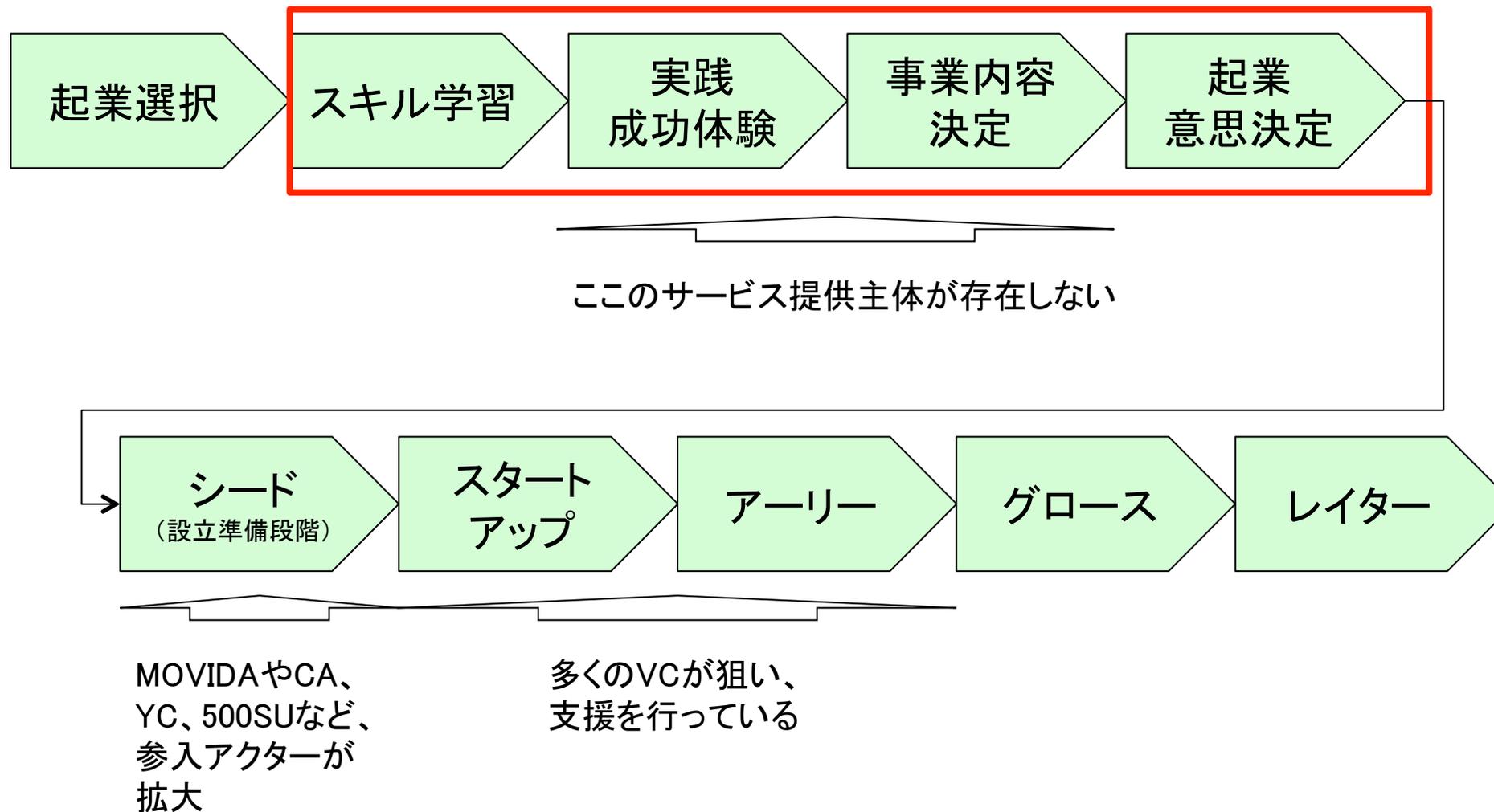
この経験から、
起業してもやっていけそうだと思い、
学生起業につながった。」



- 弊社の自己紹介
- なぜ、起業家が必要なのか
- 起業家が増えない課題は何か 一般論
- 起業家が増えない課題は何か 黒石仮説
- 解決の方向性仮説

▲▲ 起業体験を積む場の拡大が、起業家率向上につながる

▶ 起業した後の支援アクターは増えつつあるが、起業をリアルな選択肢と捉えるための起業体験を積む場を提供している主体が存在しない。このサービス主体が必要。



▲▲具体的なプログラム概要

- ▶「学習 × 実践」を計3回取り組むことを通して、経営スキルの型を体得する。
その上で、事業内容を検討、構築して、卒業する。

